

That's きつとす 令和元年 9月

秋だ！タカの渡りの時期がやってきた！

「渡り鳥」というと、ツバメやハクチョウをイメージする方もいらっしゃるでしょう。実は、渡りをするタカもいます。天覧山山頂は、タカの渡りの観察スポットで、春(3~5月)と秋(8~11月)に観察が行われています。天覧山で観察される渡りの主体は、サシバです。

サシバは、タカ目タカ科の鳥で、全長約40cm、翼を広げると約1mもあります。体重は約430~500gで、500mlのペットボトル飲料1本分くらいしかありません。極東アジアのみに生息していて、春に東南アジア方面から飛来し、日本で繁殖した後、秋に南の方へ渡っていきます。

群れになって行動する習性はありませんが、渡りやすい条件がそろうと多く集まり、大群になります。上昇気流がある山肌では、時に数百羽のサシバが一斉に旋回上昇し、その様子は「鷹柱(たかばしら)」と呼ばれています。そして、遙か岬や山を目指して一直線に滑空していきます。このような旋回上昇と滑空を繰り返しながら、サシバたちは数千キロを渡っていくのです。

サシバのほかにも、ノスリやハチクマなど多くのタカが天覧山上空を渡っていきます。天覧山を訪れたら、是非、双眼鏡でタカたちの渡りを観察してみたいはいかがでしょうか。(長谷川)

